丹鶴叢書

濱松中納言物語　三上

117
105
2

東京圖書館
和書門
藝音類
別 函
一二 架
二 號
一〇五 冊

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2

ガラス使用

東京圖書館

濱松中納言物語三上

故椙原芳埜納本

椙原家藏

世中の姫うきためしまれとし姫の山と名つり
なり出たるようもなほおくかるみよし姫と云
ところなるも字出れてかろはしまれこましハさる
へき人おまたしをいふのひなくはいきたなれ
まきしのむやうに人まく姫にそまいまふ
ほとよふしらぬ物ハほそきりに後ハ三月
の廿日のれとなる出れてやちてそつきし孫たにの
そてなとまハなほうちきこえどまつもつこやてま

濱松

ちまもりてまつまてほとゝなとのほんしあ
らまし給へるよやとおとろ（見一本）のれてうちまきつ
らしいろの店をのこのこまやゆ口をもみまきをて
かつらし給三のこやの（店一本）きたきさしかくのむし
まふ店をうそこきたえしをいくなまうりけまう
その人をまつこせよやおまきるとそのむしま
ふあひまきまくあなたへやすつ給きたえよ心
の給ひをて店をうそこ店へまつるをあつま
まうもいしをかきちもえたつけいしてまの
つらひ又いとのさワしくまのらましきるもも

のこ侍まくいまてふなる侍まるをからしして
なむ十の山りおきまるとこ店にてまつまて
りしらつてひなるなとの給むしまかのくに侍
ましほとあんないゆしのきゆぬふやつなく
けきこやの店のをみまきをくいみしう給ん
いろりおほをこと侍まく店をうそこ侍字
おましほしらましたしふ店へや侍きいの
なるまきまうしくナの店へまをやさむとうな
しひおかいし（一本）ふいつこのこよりまの（ふ一本）はまへらまう
ワらまおましまひよしをそのかとうけまきて

濱松

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2

ガラス使用

うらめしきはちきりもなりもむしりもいとやむことなく
おほろけの人の心ひよるへうもまくらぬやまち
とこつらせつ稱いうもすくるはんさしよ此つほよハ
あらさむめるをすいるくにいまたてまつりものうて
はふさなることのむ稱をきすいしめしまさを稱
まんやトくさふらまんときこと稱心ひきうさる
きまひなとのそのいかりまつしきさまの那るを
みえしらしてまつらむも世をそてせる
とそいひなりあらしなきはのくとものはおも
てふをふくもあるへきこのなとまとかしまれ

濱松

ほをぬきの法ふみかしうとしくしたひきこえひこつ
のうなふりもきすいえよぬあるとさ
へしひなをぬあるそさるへきやうにてあらめ
きうすいそもあまりきの世のほうしまりまるふ
やかのまつのしさもれをえひあくへそきの法消
息の法くへりしとうはきまし稱なるほしみなこ
おもくしつくとうくむきはくろひくさらハしる
ほしきすいえよとあまそかりくおもしほしなむ
やぬなん侍とましおほしやるくなくまるる法
なとうものあくすぬしハいみしうなのしう

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2
ガラス使用

のとりまなふるもいとくたちいてのふなと月さし
いてくるにうくひんめくらをとてみほのこのこのうまこる
おまちのしこふさらやなるしんてむこつものてさ
のたいまや一あまといみしうあまこまとひくしんて
ゑもきしふさふとひとれのつくしんのまむやう
もあまなるむとさまうしいみしくさいそくそく
そしよりたきこまおつるまきのおと再ナシ一本まちのさ
ふ虎ゐのまきこあまをゑるさいろほそさハいふ
あきこまれしいまうまうちみめくらひまゐよしむ
まうまきさいうさむしきふいてかくすてしのふ

演松

らむかうやうりんくゑ一本まいみしきおよりを法くしこる
まう虎ゐまていつ出おまきまゐ出ハ字ナシ一本まりひなきロ法
なまやまいまもさんまてうしいふなる鳥まな
まてもらゑゆこさくあくなむおましまひしもいみ
しう法くてまつらまほしうこまうまなりゑいま
そむしまのさへいま給へまたなかくてしもしナシ一本も
ほうしともなとあまくしんめしけきやうちうこの
むしまをまのをしんふくまくしのひまるまそ
ハとこおるもいみしうあままにくけきうきんもて
まやをのしおとこひまくまさらなまやいつこまうあはし

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』　請求記号 117-2
ガラス使用

まつかりしあまた世のこと世(つきこ一本)るかなかもやまやまるまましく
あまたまた世るなら(ナシ一本)いてこのくれ人のまたし給へんと
ひのまた世にまゐるかいまはるところのしまゐてにあら
まゐまゐてる字しさまるかりしくちさきの木丁
のくむらとしへまゐるとまゐへ法ぬきかまふこまて
おうちたかまと給へのおとうまいてくれとの法まへの
こやうのうのまゐひもひとへまあひくさまとかまひて
まゐかるうち給字しきもやひやまあまた世ちかのと
やかまとのこうまきたいこのかまいまてやひまたまつま
しきへ人ゐくワしきてまつま給をみいまとてま

濱松

つるへきやうに法をうそこかし侍るまていつこまとひ給
あまのまゐに志らをとてまつるへきたから稱まかの法爲
にもまた給ひさまこ字る人のかたまへましちてのいと
らうたく侍ましかまかのをかいにもたいとふたのほし
きよまとうなともあきやうにこえ給へましかハかの爲の
うちにもほらむしたまたまとしてさまさ勢給ひ
にやさるへしまうをまにゐくまゐらむなときこえ
たまふ多くまのそらいとふのくあまをみまてまて内
もとも人のおともをひのまとうりいみしきに記しま
のいまあひのこの稱のこゑまちのまそきこまる

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2
ガラス使用

おくしの松にくまこのさむしきにいとゝかよ
ほまて鐘の音の如うちなるゝ也いはくはてゝ
いとゝしきまくめてたくはんえ如音にもくまぬ水
たるまはたゝのこのけのおとうしゆきとし侍ひとをおし
たるゝ勢にまゝにうちなきゝ如く
あ年くまもゝ山のこの音まはてはまぬといま
あひのうぬのこゝろまこそしまとうちなきかはし
如ひとりしきやうまつたいまひし人のくままゐま
くかゝくまゝまてまつまゐまつまゐるものとも
こゝ出ゝさしもおほくそへくたいまやうにつひまつき

濱松

ものともなくなまゐまゐふむしまゝもあきのしやうそく
なくてしにも志も ほうしの志ゝまてもなきやまも
ぬりまゝくくたら勢まゝにものくまのうちのこゝ志や
うともめしもくゝよりものちはきやうまゝ別まりそ
みしやうのもはともゝこゝ別てのこゝやうしまてまつまし
まんともくよりにこ口人はゝとのいたしかにめくら
ひくさふまをたゝのこゝろはとつるゝまつるへきよし
くましくめしおゝをらまくほとなきいつこのふち
なるゝにとこゝろくもみなさおゝをるゝ法をしく
出ともにけらになくもものゝゆゑあまくおもひやり

一本

あるまじきしうはうまつるをすいにとめ給うて
くし給くちきところ〳〵ともきよほしもすのお
もしましところもゆるしはくろひまたたてまふへき
やともしまうきしまうしみ給なるをともいしの
まうすまひをもくまてしみところあまくしまひ
へきましかへまし〳〵おもをしまおきもぬしみのさと
なら給くやてまうよもゆるぬへくたちかつまくれ
ぬきやうりしもさまうにえさらぬるともしけう
れをさまくのへまを給なんとくすいまてあまりものの
ぷの一本ナシ一本ふうしもしほ文よくこふあさまをのおほつなさ

演松

をまるまやるへうも侍らぬをいつもまうおほし
まきまさむ侍ふのらそめてたうも侍るへきをすいまし
よりまれてまてしおきてのみすちくやまくまつるへきふ
さとふつうをのひなんやとしまつまゐのうさをとひ
いまは侍ましかとまてすいましよりまもくすてしよの中なら
さらんところもこの形をてそしひ給つてとのつけのまて
まひなとまてしひもこのて侍らぬをいまはたのこをこの
けてまつるへきよ侍まゐ事まとまてともこのくもさそ
まを給まんふてそ此ひ給なるまぬへく侍もむしし
よりまとのほけの人めいまるあるまさまるらてまを給

ふちゝのよもおちいるゝぬへくおほさゝ出しゝ水も
いのちすてのきまゝのゝまゝなるまさまをいとほしなる（をう一本）
女まをしうまゝ出いてまつるしをふらむゝのなとよも
おとしいれこゝくよみんをきまゝしとよくみゝまゝひしゝを
さふらぬへくいてゝかくせちくひなくをしけるる
人をすてむとよもどうなさぬらまむとのおしゝを
くさるんちしておのくれほしこそまつまゝなるなと
りし四五よをいみしうをしゝ字よくあそひゝのり
きのふあるまさまのくいとてもろすつしふをかちと
まし人のさゝふにたゝふこころなくふてまへるを

そ出しもてそあさましうすいろうくいひしるす
なる出といまゝてこそしたゝひなるまんをるそうしと
思むしほといとをのしゝ字りしをいさよをもろ
ともよとくひをいてきくさそひしをふ好よのる
へき時をきぬといそてきてまゝ出しあるまさのと
詠つの君のちきうまをくせのうさもおしさを
さゝんくすいておとよもいつきうむとしひしすい詠
まとひのうへまくしそむきをもすてもやをる
まゝなきさゝぬふよのへるもかれをおやことちきを
なりしすの世よりこあひおとよくりしさくへうもの

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2

ガラス使用

うちつりしを

まつ山もなほうき世のうちはふなるをいつ
こなるらむあらぬところにたまはれくをも（へ一本）
たつはまほしうおなりぬとこそんをいみしうを
のしうむきてゐまくるゑまえんくめてせまし此
はんこてまつるとしころまたの所てのほうけ
たまはれ法るをそこらさむくまさ（ナシ一本）ましく侍（き同上）
つるをくれしもいとおりしろく侍る（リ一本）とまつちよそ
にきよりしあくるをたとやまなしらいのなんうとにの
身ひとつのこまつしくあらまうくおそひ四月十日

濱松

よ日のかたつり法衣のくとおほしくく回しやの
九帖まるくよろひ三人のむとよろひあをくち菓
三しやく口志やく嫗によ給ひまろまくしなるの
うちくるつりふち（ナシ一本）かき稱の法そともおなしを此
おつ物ともなてしたの相をものくうちきのさぬて
あまうへの法をうまちまむいろの法そにちやうし
そ先のうまてものくうちきさうのむの法をまかと
いみしうきよろつり嫗にへ（つ一本）まうふまたしうほみて
さふら嫗むとくの主うにまてあやころも（き ぬ一本）くまなる
ちまくしいとまくしをさきまみさへそへ給ひ

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』　請求記号 117-2
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』　請求記号 117-2
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』　請求記号 117-2
ガラス使用

なにはむとおもひしを大弐のむまゝ兄のみやうとて
子をけしやうまゝ心いひなさ出ん世のきこえも
出んなくまゝ世にいまゝてものさまりしかゝむのとう
にあつきなんのちにそこつらまゝにあさしぬ
ちゝろのうちこをしらきくあらしひよりてしのひ
やうなるむやまさとりしかくしまゝにしむとおほし
つるまゝちをし身出まゝてうちゝろのとてさもあまり
あやしきまゝくおほしらしていくおりくる心
身しきおりしくくいとしのひを

風葉恋四詞書

くるまのへしなおかへしてもいひしよこのく

のたゝ出とまゝちきうやうしをとあるをすまゝ兄
しのひをしるりしいみしうをしきこの行さまかと
みるにつくくもくゝにてのおもまのひしあつきに
おほしこゝるゝ身しきもいろふこのうれのひし
ちゝちきまゝひもとのつきの人（ん一本）をこゝるにほゝても
ちゝてましみくいひいてらるよあくれなしいて
くるまもあるへきものをいろいろほらしまさり
身出まゝてちゝへきこともこのくてあまゝ出をとへくて
こえくゝある

風葉恋四ちゝろの大戴女

ちきうしをちゝろ出とはまゝすまゝ出とい

おとろきてあらぬけはひとゝるまにあさましくいと
しき社とよるゝ辺るはいろにまとくのゝ忠ひいてら
るゝ所にまひまきるへうもあらひ志るゝゆるりし
あさましあらさきたるまはいろまのてこいつか
まちつゝゆゝえさせしにふ此をまるぬとてても
のとやうなるむ辺まをとて語たまくおもしに
忠ひの字もうしいのなるをしほの字ぬまのくち
をしさをあとゝ落ちるまおとろしほのめしまひ
たゝましのハさてまてきてさらまし志のひくさ
そひいてまのし此ゝ辺とつはろりしもてたなる辺まに

終ハ一本

辺さきまるうらめしさをからくまのひとゝまるまのち
きまのほとまてはいろまもいらひあまるまのとてきハつ
はいろのおてゝまをハしらすのおまくまとくまの人
のあさほにとまをしてくうらみつゝまのをよる辺
まる人なるハつゝおてゝまなるぬ人の津らさをも
きてしまうらみのへし法へさそくし辺とくまるつ
のしくいみしとおもひきはいえてるもらうまらく
はいろくるしきまゝにさのゝ此ちをのやまをもな
ふかハおほしのとゆんまるまかうつ辺しうしひあら
うらみ始をまてくるしけにしひなるきまるもこのまゝ

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2

ガラス使用

117
105
2

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』　請求記号 117-2

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』　請求記号 117-2
ガラス使用